

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ 事務局活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	6
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	7
➤ 会議・イベント案内	8
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	8
➤ 会員募集中	9

巻頭書記

早いもので師走を迎えました。水辺の木々も葉を落とし、寒さと合わせ少々寂しさを感じる季節ではありますが、冬の水辺に足を運び、川の四季の変化を味わうのもよいかも知れません。

第30号では、事務局活動報告として、先月に実施した中国湖北省水利庁との意見交換及び綾瀬川現地視察支援の概要報告、会員寄稿記事として「水辺か

らのメッセージ No.7」、また JRRN や ARRN 関係者からのお知らせをご紹介します。

引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、更なるネットワークの拡大と活性化を目指し、河川再生活動に取り組む多くの方々に JRRN をご紹介頂ければ幸いです。

事務局活動報告

中国湖北省水利庁視察団との意見交換 及び 綾瀬川現地視察支援報告

2009年11月13日(金)、中国湖北省水利庁の副庁長(Ms. Liu Lieyu)を団長とする河川視察団(7名)が来日し、JRRN事務局と河川環境改善の取り組みを中心に意見交換を行うと共に、都市河川の水環境改善事例として埼玉県と東京都を流れる綾瀬川の視察を支援しました。

また来日前には、韓国河川再生ネットワーク(KRRN)事務局を務める韓国河川協会と本視察団との交流も行われ、ARRNの主要構成メンバーである日中韓の技術交流が実現致しました。

本交流活動の概要をご報告させていただきます。

中国湖北省及び水利庁の概要



中国湖北省の省都・武漢市内の親水公園(長江)
(出典：湖北省水利庁ホームページより)

中国湖北省は長江中流域に位置し、面積が約 20 万 km²（中国全土の約 2%）、総人口約 6 千万人（中国全体の約 5%）の省で、省都は武漢市です。

湖北省は「千湖之省」とも呼ばれ、省内には 960 を超える湖沼があり、その総面積は約 3,000km²。また長さ 5km 以上の河川が 4,000 以上も存在し、中国において水との関わりが最も強い地域でもあります。



湖北省の位置（赤い部分）

湖北省水利庁は、長江の本川（中央政府が管理）及び副省級市（特別行政区）である武漢市内（武漢水務局が管理）を除く、湖北省全地域の以下の水関連業務全般を担っています。

湖北省水利庁が担う業務

- (1)水資源計画策定、地方立法
- (2)水資源管理、供給計画、利用料金徴収
- (3)節水政策立案
- (4)水質、水環境管理
- (5)水関係紛争の法的解決（調停）
- (6)水関係経済管理(税金、料金策定など)、発電関連
- (7)ダム計画
- (8)河川、ダム、湖沼など水域、護岸の安全管理
- (9)農業用水、農村水電管理
- (10) 斜面等流失対策、観測と防止対策（土砂管理）
- (11)水関係の技術普及と教育活動
- (12)洪水対策、干ばつ対策



湖北省内の農業用水路（金檀地区）
（出典：湖北省水利庁ホームページより）

今回の視察団一行は、日本及び韓国の河川再生に関わる関係機関との意見交換及び関連施設見学を目的として訪問し、日本及び韓国における訪問先との調整役を JRRN 事務局が担いました。

韓国河川協会との意見交換（11 月 10 日）

本視察団は、日本訪問に先立ち、2009 年 11 月 10 日（火）に韓国・ソウルを訪問し、ARRN の韓国窓口を担う韓国河川再生ネットワーク（KRRN）事務局のある韓国河川協会（KRA）との河川管理全般に関わる意見交換を行いました。



韓国河川協会と湖北省視察団との意見交換（ソウル市内）

JRRN 事務局との意見交換（11 月 13 日午前）



JRRN 事務局長より挨拶（東京）

視察団一行は、11 月 13 日（金）午前 JRRN 事務局が設置される財団法人リバーフロント整備センターを訪問し、以下の内容で意見交換を行いました。

- ARRN/JRRN 及び（財）リバーフロント整備センターの概要説明。（JRRN 事務局）
- 湖北省水利庁の業務内容及び水資源・河川分野の現状と課題説明。（湖北省水利庁）
- 河川管理全般及び河川環境に関わる意見交換。

湖北省が抱える水問題として、視察団より以下の説明がありました。

①頻発する洪水

湖北省は中国の洪水の回廊とも呼ばれ、長江の大支川の合流点に位置することから、洪水防御が最大の課題。事業予算の半分以上は治水対策に充てられている。

②水不足

年間総雨量 1,100mm のほとんどは夏と秋に集中し、渇水期は極端な水不足に見舞われる。また近年の水需要の急激な増加が更に水不足を悪化させている。

③水環境の悪化

1980 年以降の 20 年間で特に河川と湖沼の水質が悪化し、水資源確保の面から早急に解説すべき課題と位置づけ様々な事業を実施中。特に 960 の湖沼については、湖北省と中央政府と共同で水質改善にむけた共同研究を実施中。

特に河川の水環境面では、「湖北の健康的な河川を目指して！」という理念を掲げ、将来的に河川への污水排水をゼロにすることを目標に、浄化施設の設置を急ピッチで進めているとのことでした。

また、意見交換では、水環境の問題以外にも、日本における堤防管理方法や国・地方自治体・市との役割分担について、また災害発生時の各行政機関の役割分担、更には民間が所有するダムの管理上の問題等々、水資源・河川管理全般に関わる様々な質問がなされました。



意見交換終了後の記念撮影（東京）

■ 綾瀬川の現地視察支援（11 月 13 日午後）

湖北省視察団から事前に綾瀬川清流ルネッサンスⅡ及び浄化施設に興味があるという情報を得ており、「足立区桑袋ビオトープ公園」を視察の場を選びました。（<http://www.adachi.ne.jp/users/biotop/>）

まず初めに、国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所調査課のご担当者の方から、清流ルネッサンスⅡ事業を含めた綾瀬川の変遷、公園内にある桑袋浄化施設の仕組みや働きについてご説明いただきました。

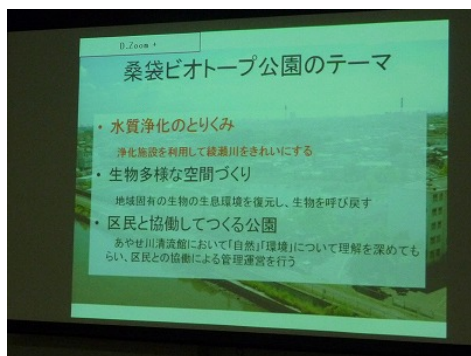
綾瀬川に合流する伝右川の汚れた水が綾瀬川の水質悪化の原因の一つとなっていることから、桑袋浄化施設では伝右川の水を浄化し、綾瀬川に放流しているそうです。また、一部は公園内のため池にも放流されています。

水質が改善され、魚が生息できるようになったという説明を受け、「かつては湖北省の川もこのようなきれいな川だった」と視察団長さんの言葉は印象に残りました。



真剣に説明を聞く様子

次に、桑袋ビオトープ公園のインタープリターの方から、ビオトープとして管理されている草地やため池、そこに生息する生物の紹介をしていただきました。また、桑袋ビオトープ公園では子供たちや地域の方を巻き込んだ活動が数多く行われているそうです。単なる施設に留まらず、地域の方と密接に関わりながら管理がされており、またビオトープ内に形成されている生態系のつながりを生物の写真によりわかりやすく説明してくださり、視察団から歓声があがるほどでした。



桑袋ビオトープ公園のテーマ

説明を受けた後は、実際に外に出て浄化施設やビオトープを視察しました。浄化槽が一部透明になっていたり、綾瀬川への放流口では放流の様子が見えるようになっていたり、啓発のための工夫が多く見られました。



綾瀬川への放流口に設置されている看板
(人頭大の石に付着した微生物による浄化が行われている)

視察団からは多くの質問がなされ、視察団の中でも「この部分は中国でも利用できるのではないかなど大変活発な意見が飛び交っていました。特に、浄化施設の構造等に関心を持たれていたようです。



浄化施設を説明する看板の前で

また、ちょうどビオトープ内で小学生の観察学習会が行われており、視察団と子供たちで記念撮影を行う等、ほほえましい場面もありました。

ため池では、カルガモやオオバン姿の確認でき、向かえに建つマンションに住む方々にとっても、憩いの場となっているとのことでした。また、青々とした緑に覆われる夏の時期の風景も見に來たいと思います。



ため池を見学している様子



ため池をバックに集合写真

今回の視察においては、国土交通省江戸川河川事務所調査課、足立区土木部みどりと公園推進室、桑袋ビオトープ公園の皆さまには多大なるご協力をいただき、大変充実した内容となりました。心より感謝申し上げます。我々事務局にとっても興味深い内容が多く、大変勉強になりました。

今後もこうした交流の機会と成果を JRRN 会員の方々と共有し、国内及び海外との河川再生に向けた情報・技術交流の場をご提供して参ります。

(JRRN 事務局 沼田彩友美・和田彰)

綾瀬川における水環境改善の取り組み紹介

綾瀬川は、埼玉県と東京都を流下する都市河川であり、その流域は首都圏の拡大と企業の集中などによる急速な都市化の進行によって、家庭や工場からの排水を原因とした水質悪化が続いていました。

このため、平成 7 年に「綾瀬側清流ルネッサンス 21 協議会」が設立され、さらに平成 14 年には「綾瀬川清流ルネッサンスⅡ 行動計画」を策定し、流域一体となった水環境改善に向けた努力が推進されています。

■ これまでの経緯

昭和 61 年 「綾瀬川河川懇談会」

平成 7 年 「綾瀬川清流ルネッサンス 21 協議会」設立
「綾瀬川清流ルネッサンス 21 計画」

(計画目標年次:平成 12 年)を策定

平成 14 年 「綾瀬川清流ルネッサンスⅡ 行動計画」

(計画目標年次:平成 22 年)を策定

■ 水質の目標

綾瀬川流域の水環境改善に向けて、BOD、DO、透視度の目標値を設定。

■ 水環境の目標

水質の現状、汚濁負荷の特製、河道形態等を踏まえて、流域をブロックに分け、ブロック毎に目標を設定。

各ブロックの特徴に応じて、透明感、臭気・水の色、ゴミの浮遊、生物の生息・生育、水辺の利用状況等を設定。

■ 目標達成に向けた施策

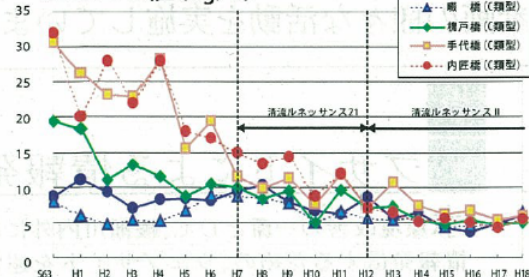
- ・ 河川内対策(浄化施設、透視度改善施策、浄化用水の導入等)
- ・ 流域内対策(下水道整備、生活系事業系負荷削減対策等)
- ・ 住民参画による水環境改善への取り組み(みんなで水質調査、水環境モニター制度等)

■ 水質改善状況

昭和 40 年代に急激に悪化した水質(BOD: 40mg/l)は、平成 19 年に BOD は 4.6 mg/l となり、初めて環境基準の 5 mg/l 以下になりました。

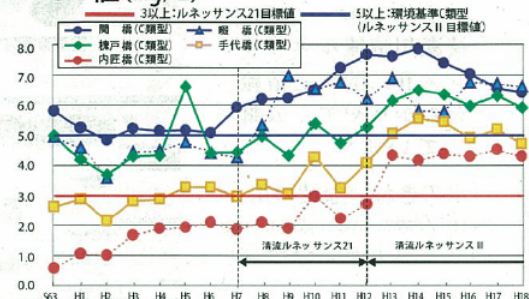
BOD

BOD75%値(mg/L)



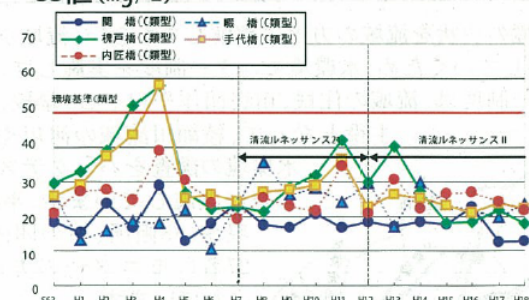
DO

DO値(mg/L)



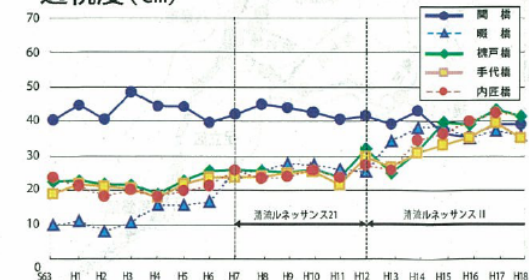
SS

SS値(mg/L)



透視度

透視度(cm)



※文章・グラフは、視察での説明内容及び綾瀬川清流ルネッサンスⅡ協議会資料より抜粋しています。

会員寄稿記事

水辺からのメッセージ No.7

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

晩秋の池： 平安時代の名残を留める悠久の水辺の彩色のパノラマ



撮影：2009 年 11 月

◆大覚寺境内にある日本最古の庭苑池

いにしへの京都の秋に、紅葉の色は大沢池の水面に映り、さらに鮮やかさを増しています。
池には枯れた蓮の群生が季節の変わり目を感じさせ、ゆく秋のわびしさを感じさせます。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 会員「金目川水系流域ネットワーク」様より御提供頂いたイベント情報です。

神奈川県では水源環境保全事業が 19 年度からスタートいたしており、市民に水を大切にとの啓発活動として、平塚市と金目川水系流域ネットワークとの共催事業講演会「市民が結ぶ森と川と海のつながり」が開催されます。

○講演 浜口哲一（前平塚市博物館長、神奈川大学理学部特任教授）

○パネルディスカッション

- ・丹沢山塊の自然を考える会 代表 鈴木盛彦
- ・里山をよみがえらせる会 代表 小清水四郎
- ・金目川水系流域ネットワーク 副代表 西岡
- ・桂川・相模川流域地域協議会 代表 峯谷一好
- ・神奈川県環境科学センター 専門員 原田進

○日時・場所

2009 年 12 月 20 日（日）13:30～17:00

ひらつか市民活動センター 会議室

○お問合せ

金目川水系流域ネットワーク

○詳細情報は以下にアクセス願います。

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0014.pdf>

【JRRN 会員からの提供情報】



JRRN 会員「江戸東京再発見コンソーシアム」山内様よりご提供頂いたイベント情報です。

「江戸東京再発見コンソーシアム」は、NPO 法人東京中央ネットを代表団体とし、中央区・港区・千代田区の企業や団体 10 社が集まり、都心の観光開発に向けた舟めぐり事業・街めぐり事業・伝統工芸事業等を展開しております。

（株）建設技術研究所では舟めぐり事業を担当し、9 月から日本橋川での舟めぐりを実施しています。江戸の歴史を中心にガイドがお話をさせて頂きながら、1 時間ほど静かな電気ボートで都心の川を巡る小さな舟旅です。

12 月～1 月の開催スケジュールを下記の通りご案内させていただきます。

○詳細情報は以下にアクセス願います。

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/docs/04-0016.pdf>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 会員である IWRA 日本委員会幹事長・藤芳様より御提供頂いたイベント情報です。

この度、下記国際シンポジウムを IWRA 日本委員会として企画致しましたのでご案内致します。

アジアモンスーン地域の統合河川流域管理国際シンポジウム IWRA 国際シンポジウム（GEOSS/AWCI と共催）

○日時：2009 年 12 月 15 日（火）13:00～17:30

○場所：東京大学・本郷・武田先端知ビル

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_16_j.html

○参加申込書、詳細プログラム等は以下をご参照ください。

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/1775.html>

※このシンポジウム開催に当たっては、河川整備基金から助成を頂いております。また、GEOSS/AWCI、APHW、UNESCO-IHP からも協賛して頂いています。

韓国河川再生ネットワーク (KRRN) 提供情報

■第 8 回生態水工学国際シンポジウム ISE2010

ARRN の韓国窓口組織である韓国河川再生ネットワーク (KRRN) 前事務局長・Hyoseop Woo 博士 (ISE2010 現地組織委員会委員長) より、2010 年 9 月に韓国・ソウル市で開催される「第 8 回生態水工学国際シンポジウム (ISE2010)」のご案内を頂きました。

来年開催予定の「第 7 回 ARRN 国際フォーラム」は、本国際会議の特別セッションとして実施致しますので、日本からの多数のご参加をお待ちしております。

- ・開催時期：2010.9.12～16
- ・開催場所：韓国・ソウル市
- ・主催：韓国水資源協会
- ・運営者：韓国建設技術研究院エコリバー 21 研究センター

※詳細は以下のホームページ参照（言語：英語）

→ <http://ise-2010.org/>

会議・イベント案内 (2009 年 12 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

特になし

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■平成 OSAKA 天の川伝説 天の川フォーラム 2009

○日時：2009 年 12 月 3 日 (木) 13:30～16:30

○主催：平成 OSAKA 天の川伝説実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1763.html>

■第 3 回東京湾再生のためのシンポジウム

○日時：2009 年 12 月 7 日 (月) 14:00～17:30

○主催：東京湾再生推進会議

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1768.html>

■第 139 回 河川文化を語る会「一植物学者がみる河川」

○日時：2009 年 12 月 7 日 (月) 18:00～20:00

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1583.html>

■アジアモンスーン地域の統合河川流域管理国際シンポジウム、IWRA 国際シンポジウム

○日時：2009 年 12 月 15 日 (火) 13:00～17:30

○主催：IWRA 日本委員会

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/1775.html>

■市民が結ぶ森と川と海のつながり

○日時：2009 年 12 月 20 日 (日)

○主催：金目川水系流域ネットワーク 他

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1756.html>

■大阪平野の水資源を考える－大阪周辺の水環境とその有効利用

○日時：2010 年 1 月 9 日 (土) 13:00～17:30

○主催：(財)日本生命財団

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1762.html>

■第 140 回 河川文化を語る会「流域から見た河川の望ましい河幅・断面形－自然河川に学ぶ」

○日時：2010 年 1 月 26 日 (火) 18:00～20:00

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1783.html>

■第 141 回 河川文化を語る会「メダカの生態に関する研究と啓発活動～山口県立厚狭高等学校生物部での取り組み」

○日時：2010 年 2 月 15 日 (月) 18:00～20:00

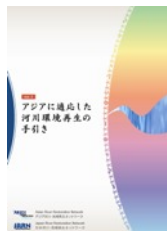
○主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1767.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・価格：無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■ 環境を知るとはということか (2010.9 発行)

- ・著 者： 養老 孟司・岸 由二
- ・出版社：PHP 研究所
- ・発行年月：2009 年 9 月
- ・価格：¥ 840 円 (税込)
- ・ISBN：978-4569773056



本書は、「流域思考」を提唱する解剖学者・養老孟司氏と生物学者・岸由二氏の両著者による対談を中心に構成され、環境問題の本質を理解する上で役立つ一冊です。本書の中で JRRN の話題も登場しています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

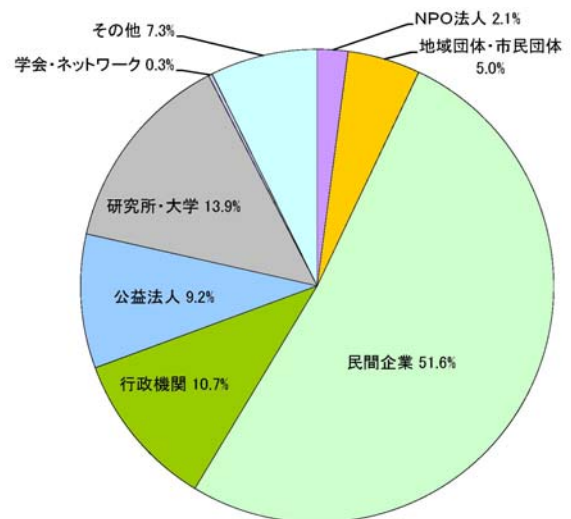
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することができます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2009 年 11 月 30 日時点の個人会員構成
(個人会員数：398 名、団体会員数：13 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテー中央ビル7階

Tel: 03-6228-3860 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>